【国指定・史跡】

たちきりいせき　よこみねいせき
立切遺跡・横峯遺跡

（令和４年 11 月 10 日指定）

立切遺跡の落とし穴
（県立埋蔵文化財センター提供）

横峯遺跡の礫群
（南種子町教育委員会提供）

○　**所在地**　　熊毛郡中種子町坂井字立切，今平，大津保畠，中畠，高峯
　　熊毛郡南種子町島間字横峯

○　**所有者**　　国，鹿児島県，中種子町，南種子町，個人

○　**特　徴**

立切遺跡は，種子島中部の標高 120ｍの台地上に立地する。発掘調査によって，後期旧石器時代前半期の落とし穴遺構 24 基，礫群５基，焼土跡 12 基，炭化物集中３か所等が確認された。落とし穴遺構はいずれも種Ⅳ火山灰層（約３万５千年前）下位で検出され，断面はフラスコ形と筒形で，上端開口部はいずれもラッパ状に開く特徴を持つ。礫群には明確な焼土や炭化物が見られる。出土遺物は磨石や局部磨製石斧等の礫石器が主体である。

横峯遺跡は，種子島南部の標高 120ｍの台地上に立地する。発掘調査では，立切遺跡同様に後期旧石器時代前半期の礫群９基と炭化物集中 10 か所等が検出され，礫群には明確な掘り込みを持つものがある。石器は台石や磨石のほか，削器等の剥片石器も認められる。

両遺跡は文化層の年代や変遷が共通する。さらに，両遺跡における植物質食料加工具の卓越や伐採具の存在は照葉樹林を主体とする森林環境への適応を示しており，立切遺跡の遺構は生業のあり方を，横峯遺跡の遺構は居住のあり方をよく示している。これらが古本州の南端でいち早く出現した点は，旧石器時代の現生人類の環境への適応過程を理解する上で重要である。